KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE
for ASIAN and OCEANIAN STUDIES
九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構

KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE
for ASIAN and OCEANIAN STUDIES

KYUSHU
UNIVERSITY

KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE for ASIAN and OCEANIAN STUDIES

アジア・オセアニアから
世界を拓く

今、世界は多くの課題に直面している。
未来では、まだ誰も知らない課題が待っているかもしれない。
ここには、それらの困難を克服する希望がある。

今までの枠を超え
ともに手を取り合い
明るい未来へ進んでいこう。

歴史あるこの学び舎から
アジア・オセアニア、そして世界へ。
新たな挑戦が始まっている。

KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE for ASIAN and OCEANIAN STUDIES

九州大学総長
アジア・オセアニア研究教育機構長
石橋 達朗

機構長挨拶

九州大学は、「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となる」ことを基本理念としております。この基本理念の実現のため、九州大学アクションプランを策定し、世界最高水準の卓越した学術研究の推進を目的とする「研究教育機構」の創設により、本学の強みや特色を持つ研究分野の更なる発展融合と教育への還元を行っていくこととしました。

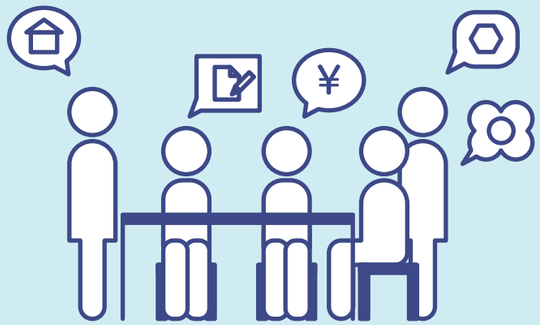
また、本学は多様な研究教育活動を地理的かつ歴史的につながりの深い「アジア・オセアニア」で展開してきました。これらの優れた研究教育成果や基幹総合大学である本学の強みを生かし、アジア・オセアニア地域で今日生じている社会的課題の解決、さらには将来生起することが予想される社会問題の発生抑制に貢献することを通じて、未来を拓く新たな学問領域の構築を目指し、2019年4月に「アジア・オセアニア研究教育機構」を創設しました。

喫緊の課題として、国連サミットにおいて2016年から2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されております。これらの課題に立ち向かう研究を推進するために、先行してエネルギー関連のSDGsに対して取り組んでいるエネルギー研究教育機構と連携して、人文社会科学系、理工系、生命系など学問分野の枠組みを超え、全学が一体となって研究教育活動を展開することとし、課題が生じている現地の要求に応じて（オンデマンド）、現地機関との現地での協働（オンサイト）によって、課題を解決・軽減・発掘・予測することに取り組みます。

本機構におきましては、「アジア・オセアニアの課題解決は世界中の課題解決に繋がる」と考え、学際的・融合的な研究教育活動を全学一体にて推進して参ります。関係各位におかれましては、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い致します。

学際的な活動を

全学の研究教育活動に横串をさす
「クラスター」と「モジュール」の組織構成で
異分野が様々に交じり
風通しの良い議論を

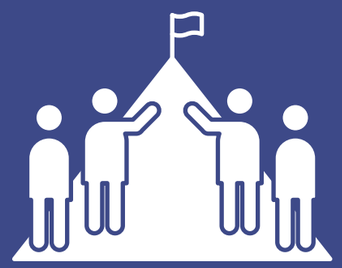


オンデマンド オンサイト

課題が生じている現地の要求に応じて（オンデマンド）
現地の機関との現地での協働によって（オンサイト）
課題の解決・軽減・発掘・予測

FUTURE SDGs

2030年までの達成目標であるSDGs
この目標を達成することはもちろん
Q-AOSはその先を見つめ
研究教育活動を進めていく



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ABOUT Q-AOS　アジア・オセアニア研究教育機構とは

Q-AOS（キューエイオス）とは、Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studiesの略称です。

MISSION

「アジアに開かれた大学」として、100年を超えて展開してきたアジア・オセアニア地域との交流と教育研究の集積を生かして、世界最高水準の独創的かつ学術的研究とイノベーションを創出します。

VISION

アジア・オセアニア地域で今日生じている社会的課題の解決と、将来生起することが予想される社会問題の発生抑制などに関する研究教育にオール九大で取り組み、SDGsとSDGsのその先に本質的な貢献をします。

ORGANIZATION CHART 組織図

意思決定会議

戦略会議
企画運営委員会

機構長
石橋 達朗 総長

副機構長
原田 明 副学長

機構研究統括
清水 周次 副理事

機構教育統括（兼務）
原田 明 副学長

事務部門

研究推進部門

研究活動及び課題への取組の推進、学内外・国内外の研究情報の収集・分析・発信、産学連携、研究成果の発信等を担当。

研究推進ディレクター

Scott Valentine 教授

研究推進コーディネーター

横田 文彦 准教授

田中 俊徳 准教授

教育企画部門

各クラスターの教育内容を集約し、機構としての教育活動に関する企画調整などを担当。

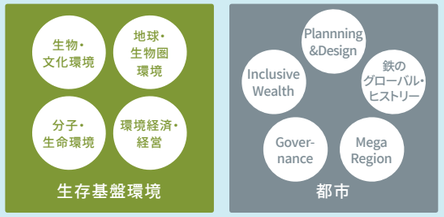
教育企画ディレクター

研究成果を生かしつつ、海外大学やJICA、国連などと協働して現地での体系的なオンデマンド・オンサイト教育活動の展開を主導

クラスター

■：クラスター(*1)
●：モジュール(*2)

Q-AOSでは多面的なアプローチが必要な社会的課題に立ち向かうために、分野の垣根を越えて、複数のモジュールを有するクラスター単位での活動を行い、SDGsの目標を達成するよう尽力しています。



*1 クラスター
SDGsの17ゴールを念頭に、機構としての活動を展開するグループ。
各クラスターには複数のモジュールが柔軟に集結し、連携・協働・融合した活動を行う。

*2 モジュール
具体的な課題の解決・発掘などに取り組む、様々な専門家が集まる研究者チーム。

KYUSHU UNIVERSITY

- ◆ 基幹教育院
- ◆ 研究院
- ◆ 高等研究院
- ◆ 附置研究所
- ◆ 国際研究所
- ◆ 大学病院
- ◆ 情報基盤研究開発センター
- ◆ エネルギー研究教育機構
- ◆ 附属図書館
- ◆ 総合研究博物館
- ◆ 学内共同教育研究センター
- ◆ 先導的研究センター
- ◆ 本部・推進室等

KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE for ASIAN and OCEANIAN STUDIES Q-AOS

協働

ALL Kyushu University

GRASP
CONNECT
to the WORLD
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

社会的背景の把握・理解

企業/海外大学/政治・自治体との共同研究・教育

アジア・オセアニアの学びを世界全体へ

2030年までの国際目標

Future SDGs

そして、その先へ

CLUSTERS　クラスター　中心メンバー紹介

資源循環クラスター　クラスター長｜笹木 圭子 教授

アジア・オセアニア地域における資源・環境循環型社会システムの構築をめざし、以下の研究活動をおこなっています。

❶開発対象外鉱石および都市鉱山からのバイオテクノロジーを活用した有価金属の回収技術イノベーション
❷未利用鉱石中の忌避元素と有価金属の分離技術の開発および忌避元素の固定化技術開発
❸後発ASEAN諸国における持続的な鉱物資源開発のための基盤整備・防災・資源政策・鉱山開発
❹アジア天然素材（動植物・微生物・昆虫・農林畜水産物・鉱物・民間伝承情報・生物多様性情報など）の機能探索と社会実装

MEMBERS

クラスター長兼
資源循環モジュール長
笹木 圭子 教授
（工学研究院）

資源開発モジュール長
島田 英樹 教授
（工学研究院）

機能性天然素材開発モジュール長
清水 邦義 准教授
（農学研究院）

生存基盤環境クラスター　クラスター長｜荒谷 邦雄 教授

近年における想定外の気候変動と急激な生物多様性の喪失に対して、生存基盤環境クラスターでは、 アジア最大の生物多様性研究の拠点形成によって、アジア・オセアニア諸国の生物多様性の解明と保全、生態系機能や生態系サービスの持続的な利用を図るとともに、 汎太平洋な気象・海洋データの観測・監視システム構築に基づく地球環境変動への具体的な対応と、各国の温室効果ガスの削減、低炭素型社会の実現のためのガバナンス手法の確立を目指します。

MEMBERS

クラスター長兼
生物・文化環境モジュール長
荒谷 邦雄 教授
（比較社会文化研究院）

地球・生物圏環境モジュール長
市川 香 教授
（応用力学研究所）

分子・生命環境モジュール長
関 元秀 助教
（芸術工学研究院）

環境経済・経営モジュール長
加河 茂美 教授
（経済学研究院）

都市クラスター　クラスター長｜尾崎 明仁 教授

SDGs目標の一つである「包摂的で安全かつレジリエントで持続可能な都市及び人間居住の実現」に　向けて、アジア地域の多元性、多様性、移動性を重視したフィールド課題解決型の実践的教育・研究を 推進し、21世紀アジア地域の居住環境づくりを支援できる都市分野の国際人を育成すると共に、長期的に取り組むべき社会的課題の発見と新研究領域の創成を目指し、アジア地域の持続可能な発展における九州大学の先導的役割を果たします。

MEMBERS

クラスター長
尾崎 明仁 教授
（人間環境学研究院）

Planning & Designモジュール長
坂井 猛 教授
（人間環境学研究院）

鉄のグローバル・ヒストリー
モジュール長
井上 朝雄 准教授
（芸術工学研究院）

Mega Regionモジュール長
相澤 伸広 准教授
（比較社会文化研究院）

Governanceモジュール長
出水 薫 教授
（法学研究院）

Inclusive Wealthモジュール長
馬奈木 俊介 教授
（工学研究院）

医療・健康クラスター　クラスター長｜森山 智彦 副理事

医療の地域格差解消や、生活水準の向上に伴う疾患増大への対応など、少子高齢化、都市化、国際化等を踏まえた健康寿命の延伸に向けた研究教育を推進します。

❶情報通信技術を駆使し、医療知識や経験を効率的かつ経済的な手段で共有します。
❷予防医療事業を展開し、無医村など医療過疎に由来する健康格差を改善します。
❸高齢者の健康・福祉を取り巻く法制度や社会環境を調査し、政策提言を導きます。

MEMBERS

クラスター長兼
遠隔医療モジュール長
森山 智彦 准教授
（大学病院）

PHC*モジュール長
中島 直樹 教授
（大学病院）
*（ポータブル・ヘルス・クリニック）

エイジングモジュール長
肥後 裕輝 教授
（留学生センター）

ストラテジックメディカルデザイン
モジュール長
平井 康之 教授
（芸術工学研究院）

セキュリティー・防災クラスター　クラスター長｜鬼丸 武士 教授

現在、アジア・オセアニア地域では、越境犯罪や感染症の流行といった非伝統的安全保障問題、情報技術 の進歩が国家や社会にもたらす影響、高齢化や都市化の進展などによる政治・経済・社会秩序の不安定化、 地震や津波、火山の噴火、台風、集中豪雨などの自然災害など、様々なセキュリティー課題に直面しています。本クラスターはこれらの課題の実態を解明し、防災や減災、復興への取り組みを支援し、 政策提言などをおこないます。

MEMBERS

クラスター長兼
セキュリティーモジュール長
鬼丸 武士 教授
（比較社会文化研究院）

防災モジュール長
三隅 一百 教授
（比較社会文化研究院）

文化変動クラスター　クラスター長｜久保 智之 教授

「文化・政治・経済を包括する人間の営みとしての文化の変動を、長期的視野で分析・検討します。これによって、解決すべき社会的諸問題が生み出される文化的背景を明らかにするとともに、その解決のための糸口を提示し、また新たな課題を発掘します。

MEMBERS

クラスター長兼
情報モジュール長
久保 智之 副学長
（人文科学研究院）

文化遺産モジュール長
宮本 一夫 教授
（人文科学研究院）

アジアー日本モジュール長
岩田 健治 教授
（経済学研究院）

PAST SYMPOSIUMS　シンポジウム実績

Q-AOSでは学際的・融合的な研究教育活動を推進し、広く社会へ発信し続けるために、様々なイベントやシンポジウムを企画しています。

シンポジウム

キックオフシンポジウム
「アジアから世界を拓く SDGs そしてその先へ」

開催日時：2019年7月10日（水）　会場：稲盛財団記念館（九州大学伊都キャンパス内）

本シンポジウムはアジア・オセアニア研究教育機構として初めてのイベントとなり、機構の紹介・各クラスターの紹介を行いました。さらに、各クラスターに関連する研究テーマで活動されるアジア・オセアニア各国の研究者からの招待講演も行われ、**幅広いグローバルな知見**を得る場となりました。シンポジウムと並行して行われたポスター展示では、学問分野の垣根を超えた活発な議論や交流が行われました。約160名の参加があり、学内外の方々に当機構を知っていただく機会になりました。

シンポジウム

シンポジウム2020
「感染症と生きる－コロナから学ぶ持続可能な社会とは－」

開催日時：2020年9月2日（水）～3日（木）　会場：椎木講堂（九州大学伊都キャンパス内）

本シンポジウムはウィズ＆ポストコロナ時代にどう対応し、どう備えるべきなのか多様な参加者の皆様とともに考えていくことを目的として開催しました。また、COVID-19の影響によりオンラインとオンサイトでのハイブリッド形式での開催となり、「コロナから学ぶ持続可能な社会とは」に沿った**機構としての挑戦**の一つでもありました。

1日目には6名の方に、歴史、自然・環境、都市、経済といった観点から特別講演と招待講演をいただきました。また2日目の午前中には3つのテーマ「教育」・「生活」・「経済」に分かれ、企業、行政、大学といった様々な観点からの議論を、午後には、「アジア・オセアニア地域におけるコロナ対策の現況」について同地域各国との国際テレカンファレンスに続き、若手研究者による発表・討論「私たちのWith/Postコロナ：新たな社会ニーズに対応した次世代研究ロードマップ～分野を超えて次世代研究者が考える～」を行いました。いずれのセッションにおきましても、示唆に富む発表、活発な意見交換が行われ、2日間でのべ約500名の参加があり、盛会のうちに幕を閉じました。

九州大学
アジア・オセアニア研究教育機構

〒819-0395　福岡県福岡市西区元岡744番地

TEL　092-802-2603
E-MAIL　aosuishin@jimu.kyushu-u.ac.jp
WEB　http://q-aos.kyushu-u.ac.jp/

アクセス①
地下鉄空港線「姪浜駅」
→JR筑肥線へ乗換「九大学園都市駅」
→ 昭和バス「伊都キャンパス」
※地下鉄空港線で西唐津行き、筑前前原行きに乗車した場合は、姪浜駅での乗り換えは不要。

アクセス②
地下鉄空港線「博多駅」
→ 西鉄バス「伊都キャンパス」

2021年4月1日発行